院外処方せんへの検査値の表示

総合病院、高砂クリニックから開始

医薬分業が定着した近年、外来患者さんに対する安全で良質な薬物療法を提供するためには、医療機関と保険薬局との十分なコミュニケーションや情報共有が欠かせません。

その有効な手段のひとつとして、大学病院などを中心に院外処方せんに検査値を表示する取り組みが徐々に広がっています。

社会医療法人同仁会でも今年5月9日より、院外処方せんへの臨床検査値の印字をはじめました。当面、耳原総合病院と高砂クリニックから開始しています。

最近、腎機能によって用量調節が必要な薬剤や、内服抗がん剤による治療が増えるなど、医薬品の有効・安全な使用のための薬学的管理が重要となっています。

開示した検査値は「医薬品の適正使用」「個別の投与計画」「薬の有効性評価」「有害事象の早期発見モニタリング」等の、薬学的管理へ活用されています。

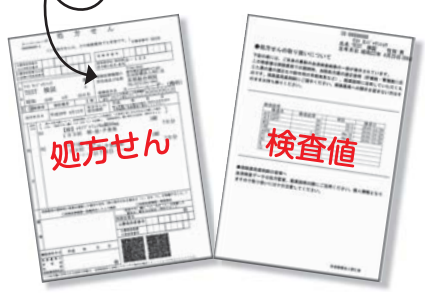
処方せんと一緒にお渡しする血液検査結果は、過去4カ月以内に測定された直近の値です。検査結果表もできるだけ保険薬局へのご提示をお願いします。

どんなメリットがあるの？

- 保険薬局の薬剤師が検査値を確認することで、お薬の量が患者さんの状態に合っているか、お薬による副作用の初期症状を確認しやすくなります。
- 薬剤師による検査値確認を含めた処方鑑査の結果、気になった点があれば主治医に対し問い合わせがあります。
- かかりつけ薬局では、表示された検査値から、他院からのお薬も含めた安全性を確認することができます。

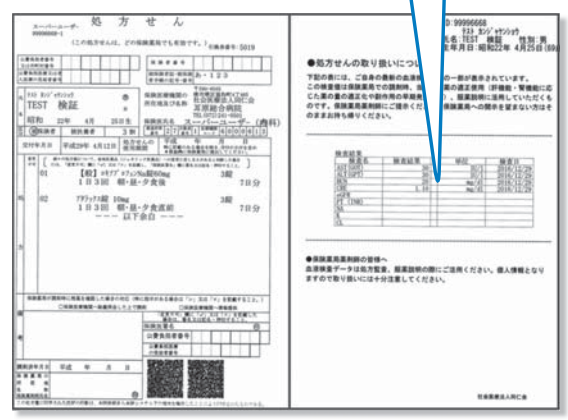
検査結果を薬局に伝えたくない場合は？

- 従来の『処方せん』のみ渡してください。
- ２枚目はそのままお持ち帰りください。
- 薬による治療を安全に行うためには検査結果の確認は重要です。保険薬局に渡されることを強くお勧めします。



検査結果（例）

検査名	検査結果		単位	検査日
AST(GOT)	30		IU/l	2016/10/27
ALT(GPT)	30		IU/l	2016/10/27
BUN	25	H	mg/dl	2016/10/27
CRE＊U				
GFR				
PT(INR)				
NA				
K				
CL				



同じA5で２枚お渡しします

理事会報告

5月度理事会（概要）

5月25日(木)午後7時から理事31名、監事2名の出席で2017年度：第20回理事会が同仁会本部3階で開催されました。

理事長挨拶のあと、専務より会務報告、その他友の会活動等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について了承しました。

〈主な内容〉

①全日本民医連、大阪民医連、拡大常任理事会報告

②友の会活動と健康づくり、ふれあい・支えあい、医学生委員会及び看護確保推進委員会報告

③評議員会開催及び議案報告

④4月度経営結果報告

4月は経常利益赤字、予算比も未達も前期比では上回っている。今期は「絶対に赤字を出さない予算」を組んでいることから月次予算の確実な執行が求められる。

⑤協同基金推進委員会報告

⑥その他

・4月度社保平和活動委員会活動

・同仁会組織運営規程、経理規程、就業規約、公印規程

・同仁会理事会あり方委員会中間報告

・泉州看護学校施工業者選定

連載 耳原総合病院建替え事業にみる協同の思想 その7

立命館大学産業社会学部教授
都市社会学者・同仁会理事　リム・ボン

（前号よりつづき）

9．地域交流ゾーンのあり方について

2012年夏、最大の難関が立ちはだかった。2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興事業の煽りを受けて建設コストが大幅幅に増額したのである。当初は45億円程度と考えられていた建設工事費が70億円を超えることが予想され、同仁会理事会としてはこれをなんとか65億円以内に収めることとし、年度内着工をめざして大胆にVE（Value Engineering）に取り組むことを決断した。

VEとは、製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」とそのためにかける「コスト」との関係で把握し、システム化された手順によって「価値」の向上をはかる手法とされているが、要は必要不可欠な部分以外は削除する作業である。因みに、最終的な総事業費は91億円に達した。

昭和設計からは、①地下空間を断念すること、②地域交流ゾーンは病院本体と切り離してより簡易な空間を別途用意すること、この2点が提案された。地域交流ゾーンを切り離せば建設コストは1億円程度軽減されるとのことでであった。これに対して筆者はマスターアーキテクトとしての立場から次のような提案を行った。

「地域交流ゾーン」にはVEを適用せず、当初案に戻すべきである。ただし、この場合に発生する建設コスト（1億円）については、南ブロック（5法人）の協同プロジェクトによって捻出することをめざす。2013年11月に予定されている「一万人集会」は南ブロックの総力を結集して取り組まれることになっている。これに、「地域交流ゾーン」建設資金寄付活動を結合させることを考えてはどうかと提起した。

（つづく）

※文章中の肩書は当時のものです。